

Nordic Market Biweekly Report

情報提供資料

北欧市場ニュース～北欧投資の魅力と最新情報を隔週でお届けします

2015年3月9日

☆為替・金利の動向

対円レート推移
(2015年2月20日～2015年3月6日) ※単位は円

	2月20日	2月27日	3月6日	期間中 騰落率
ノルウェー・クローネ	15.80	15.54	15.28	-3.3%
スウェーデン・クローナ	14.21	14.38	14.27	0.4%
デンマーク・クローネ	18.14	17.95	17.58	-3.1%
ユーロ(フィンランド)	135.45	133.89	131.00	-3.3%

上記北欧4か国通貨は、上記期間中はスウェーデン・クローナを除き、対円で下落しました。

欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が5日、翌週から開始するECBによる欧州ソブリン債購入の詳細を明らかにしたことを受け、ユーロとユーロに連動しているデンマーク・クローネは対主要通貨で下落しました。

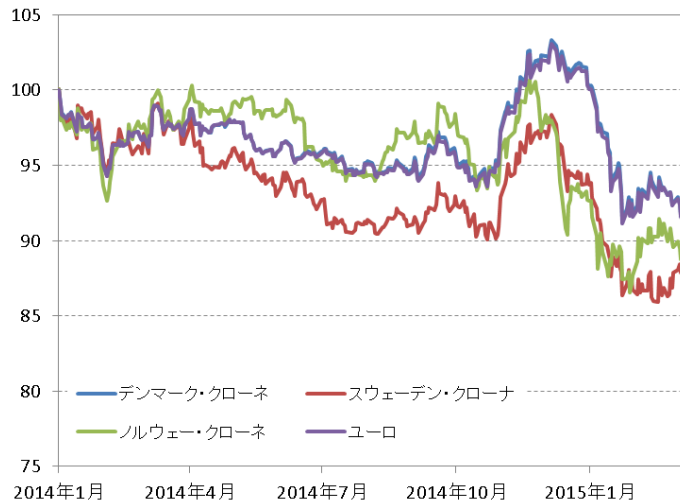
また、ノルウェーの鉱工業生産、小売売上高が冴えなかったことを受け、ノルウェー・クローネも対主要通貨で下落する一方で、スウェーデン・クローナは、予想を上回る経済指標の発表が相次いだことや前期間の下落の反発もあり、対主要通貨で上昇しました。

銀行間取引金利3カ月物推移
(2015年2月20日～2015年3月6日) ※単位は%

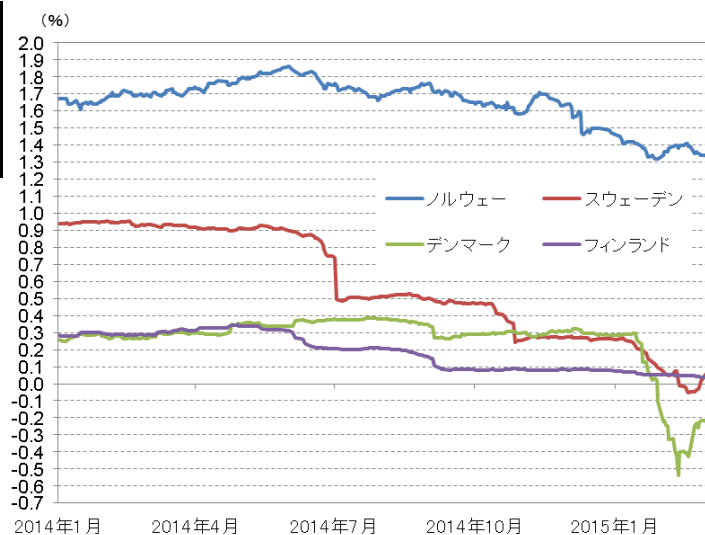
	2月20日	2月27日	3月6日	期間中 変動幅
ノルウェー	1.390	1.340	1.380	-0.010
スウェーデン	-0.050	0.018	0.061	0.111
デンマーク	-0.385	-0.218	-0.215	0.170
ユーロ圏(フィンランド)	0.048	0.039	0.036	-0.012

上記期間はノルウェー、ユーロ圏の銀行間取引金利は小幅低下する一方で、デンマークとスウェーデンの銀行間取引金利は上昇しました。

デンマークでは、デンマーク・クローネのユーロ・ペッグ(ユーロ連動)離脱を狙った投機筋の動きが終息しつつある、との見方が広がり、金融緩和圧力が弱まりました。また、スウェーデンでも、好調な経済指標の発表が相次いだことで、目先の金融緩和圧力が弱まり、両国で銀行間取引金利が上昇しました。

対円レート推移
(2014年1月1日～2015年3月6日)
※2013年末を100として指数化

出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

銀行間取引金利3カ月物推移
(2014年1月2日～2015年3月6日)

出所:ブルームバーグデータをもとに当社作成

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年3月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

☆北欧ニュース

＜ノルウェー政府年金基金、不動産投資を積極化＞

ノルウェー政府年金基金(総資産8,930億米ドル、2015年2月現在)は2014年、ソブリン・ウェルス・ファンドではトップクラスとなる、76億米ドル相当の不動産を世界中で購入し、年明け以降も、ロンドン、ニューヨークで大型の売買を成立させ、不動産への投資意欲は衰えを見せません。

2014年に米国内不動産を売買した外国人の国籍はカナダに次ぎ、ノルウェーが第2位に躍り出ました。その額は2013年対比で120%の増加となり、同基金がノルウェーのランクアップに大きく貢献したものと推測されます。ちなみに、2014年9月末時点で、同基金の総資産に占める不動産の割合は1.3%でしたが、この比率を5%程度まで高めるものと見られています。

＜デンマーク・クローネのユーロ・ペッグ(対ユーロ連動)は維持される見通し＞

デンマーク中央銀行はデンマーク・クローネのユーロ・ペッグ維持の目的で、為替市場でのデンマーク・クローネの売り介入を断続的に実施しました。これを受け、同行が保有する外貨建て資産は、2月末までに253億米ドル、同国GDPの9%相当に達したことが明らかになりました。この大規模な市場介入に加えて、3週間程度で4回の利下げ、大胆なマイナス金利の導入が奏功した模様です。今や、通貨のユーロ・ペッグ離脱を目論んでいた投資家の大部分は、デンマーク・クローネ買いのポジションを解消しつつあると市場では見られています。

＜スウェーデンの2014年10-12月期GDP成長率(対前期比)は市場予想を上回る＞

スウェーデン統計局が発表した2014年10-12月期、GDP成長率は前期比+1.1%と市場予想+0.5%を大きく上回る結果となりました。前年比では+2.7%となり、これも市場予想を上回る結果となりました。同国景気の先行きに慎重な見方を示しているアンデション財務大臣の見通しに反し、小売売上高(前年比)や鉱工業生産(前年比)等、良好な経済指標の発表が相次ぎ、スウェーデン・クローナの対主要通貨での反発や、同国銀行間取引金利の上昇の要因となっています。(前頁参照)

＜2014年、フィンランド国内のベンチャーキャピタルの投資は活況＞

フィンランド・ベンチャーキャピタル協会によると、昨年、ベンチャーキャピタルからの投資を受けたフィンランド企業は延べ462社となり、2008年に記録した最高件数を15件更新しました。専門のベンチャーキャピタルからの出資額は、例年並みの6億9,000万ユーロ、個人投資家を中心とした投資ファンドからは238件、2,100万ユーロの出資がありました。銀行の与信スタンスの厳格化に加え、ユーロ圏での超低金利環境の長期化見通しを受け、一定期間、配当の受け取りが期待できないベンチャーへの投資に対する、個人投資家の投資のハードルが下がっていることが背景と考えられています。

出所:各種資料をもとに当社作成

* 上記は文中に登場する企業等に関連する特定の有価証券等の取得勧誘を行うものではありません。



BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第378号

加入協会 一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年3月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。